

第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会

ランチョンセミナー 7

がん疼痛の治療の軸となる ジクトル[®]テープ[®]再考

～経口NSAIDsと何がどう違うの？
ジクトル[®]テープ[®] もっと知ってみませんか？～

2024年

日時

6月14日(金) 12:20～13:10

会場

第11会場 神戸国際展示場
1号館2階B

座長

馬渡 弘典 先生

国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
緩和支援療法科 部長

演者

山崎 圭一 先生

ベルランド総合病院 緩和ケア科 部長

共催

第29回日本緩和医療学会学術大会
第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 / 久光製薬株式会社

② ③ ④

がん疼痛の治療の軸となる ジクトル® テープ再考

～経口NSAIDsと何がどう違うの？ ジクトル® テープ もっと知ってみませんか？～

抄録

みなさんは、がん疼痛治療薬といえば、真っ先にオピオイドを思い浮かべるとと思いますが、そうでしょうか？オピオイドが必要のない軽度のがん疼痛には、NSAIDs、アセトアミノフェンの投与になります。軽度のがん疼痛の割合は、42～36%程度との報告があり、意外と多く、がん疼痛治療に関わるものなら誰もが対処していることと思われま

す。みなさんはNSAIDsについて、詳細な内容を御存知でしょうか？なんとなく使い慣れた薬を処方していませんか？もちろんそれでも問題はないと思いますし、今までも問題がなかったでしょう。しかし、実は、NSAIDsには、今まで気づいていなかった問題があるかもしれません。痛みが治まった、それだけに注目していないでしょうか？NSAIDsを使用する際に、腎機能や持続時間は着目されると思いますが、NSAIDsの血中濃度や定常状態なんて考えたことがあるでしょうか？胃粘膜障害も気になりませんか？薬の切れ目の痛みも考えてみませんか？患者さんの内服負担も気にしませんか？オピオイドは使い分けをするのに、どうしてNSAIDsは使い分けないのでしょうか？みなさん、いつものNSAIDsから一歩踏み出してみませんか？NSAIDsを使いこなし、軽度のがん疼痛の治療にもっと幅を持たしませんか？

このランチョンセミナーでは、なぜ、がん疼痛治療薬として、ジクトル® テープが望ましいと考えるのか？がん疼痛の軸となるジクトル® テープをあらためてみなさんと一緒に学んでいきたいと思

山崎 圭一 先生 | ベルランド総合病院 緩和ケア科 部長

【略歴】

平成10年 3月 国立滋賀医科大学医学部卒業
平成10年 4月 大阪市立大学(現大阪公立大学) 医学部附属病院
第2外科入局
平成11年 5月 国立大阪南病院(現大阪南医療センター) 外科
平成11年11月 大阪市立総合医療センター 外科
平成12年 4月 大阪市立大学(現大阪公立大学) 医学部大学院
医学研究科肝胆膵外科学入学
平成16年 3月 同大学大学院卒業 医学博士取得

平成16年 4月 市立藤井寺市民病院 外科
平成20年 4月 ベルランド総合病院 外科・乳腺外科
平成23年 4月 ベルランド総合病院 乳腺外科 副部長
平成25年 1月 ベルランド総合病院 乳腺センター 副センター長
平成27年 9月 ベルランド総合病院 乳腺センター 副センター長
兼 緩和ケア科 副部長
平成29年 4月 ベルランド総合病院 緩和ケア科 部長
現在に至る